メタ知覚の正確さに時間的距離が及ぼす影響

○藤島喜嗣¹

(¹昭和女子大学大学院生活機構研究科)

キーワード: メタ知覚、時間的距離、解釈レベル

Effects of temporal distance on the accuracy of meta perception

Yoshitsugu FUJISHIMA¹

(¹Graduate School of Human Life Science, Showa Women's Univ.)

Key Words: meta perception, temporal distance, construal level

目 的

マインド・リーディングは日常的に行われるが、不正確であると指摘されている。特に、他者からの評価推測であるメタ知覚は不正確になりやすい。Eyal & Epley (2010) は、その一因として他者間の解釈レベルの相違を指摘した。メタ知覚において、ターゲット人物は、具体レベルで自己評価し、それを投射して推測する。他方、観察者は抽象レベルでターゲット人物を評価する。その結果、基づく情報に差異が生まれ、メタ知覚が不正確になる。Eyal & Epley (2010) は、外見評価場面で評価までの時間的距離を操作し、支持的証拠を得ている。本研究はこの知見を追試し、再現可能性を検証する。

ところで、Eyal & Epley (2010) では、マインド・リーディングにおける投射が仮定されているが、検証できていない。本研究では、投射過程の傍証を得るために、ターゲット人物に自己評定を求めることとした。投射が生じたのであれば、自己評定と評価推測との間に高い正相関がみられるはずである。また、マインド・リーディングを行うのは、ターゲット人物だけではない。観察者もターゲット人物の自己評価を推測しようと考えられる。そこで、本研究では、観察者によるターゲット人物の自己評価推測を求め、ターゲット人物のメタ知覚と対称的な現象が生じているかを確認する。

方 法

実験参加者 東京都内の女子大学に通う学生が実験に参加し、ターゲット条件 (32 名, 平均年齢 19.81 歳, $SD = .59$) もしくは観察者条件 (32 名, 平均年齢 19.59 歳, $SD = .84$) のいずれかとして、近接条件もしくは遠方条件に無作為に配置された。

手続き 基本手続きは Eyal & Epley (2010, Exp 1) と同一であるが細部が異なっていた。ターゲット条件の実験参加者には、外見に関する他者評価推測過程の研究だと告げた。参加同意書を作成後、ポーズ写真を 2 枚撮り iPad 上に表示した。他の同性参加者に写真を見せ魅力評定してもらったと教示し、その相手に見せる 1 枚を選択させた。近接条件では、その日のうちに見せると告げた。遠方条件では 6 ヶ月後に見せると告げた。同性観察者が写真をどう思うか自由記述させ、観察者の評定を「かわいい」「すてきな」など 20 項目の形容詞に 9 件法で推測させた。さらに、写真に基づく自己評定を同じ 20 項目の形容詞に求めた。また、操作チェック項目として、写真を見せるまでの時間的距離感を 2 項目 6 件法で回答させた。**観察者条件**の実験参加者には、ターゲット条件 1 名分の写真をみせ、ターゲット人物に対してどのように感じるか自由記述を求めた。その後、ターゲット人物の魅力をターゲット条件と同様の 20 項目に 9 件法で評定した。さらに、ターゲット人物の自己評定を推測した。また、写真撮影時までの時間的距離感を回答させた。

結 果

形容詞 20 項目における、ターゲットによる評価推測 ($\alpha = .83$)、自己評定 ($\alpha = .89$)、観察者による他者評定 ($\alpha = .94$)、評価推測 ($\alpha = .87$) のいずれも高い信頼性を示したので、平均値を指標とした。

推測は実際に予測するか ターゲットによる評価推測と観察者の実際の評定との相関係数を算出した。その結果、サンプル全体では弱い正相関を示した ($r = .37, p = .06$)。近接条件では無相関である一方 ($r = .21, ns.$)、遠方条件では正相関を示した ($r = .59, p = .05$)。

これは、Eyal & Epley (2010) と類似する結果であった。次に、ターゲットによる評価推測とターゲット自身の自己評定との相関係数を算出した。その結果、サンプル全体 ($r = .91, p < .001$)、近接条件 ($r = .91, p < .001$)、遠方条件 ($r = .92, p < .001$) のいずれも同様に強い正相関を示した。この結果は、他者からの評価推測に自己評価を投射した可能性を示している。

同様に、観察者による評価推測とターゲットの実際の自己評定との相関係数を算出した。その結果、サンプル全体では無相関であった ($r = .23, ns.$)。近接条件では無相関である一方 ($r = .02, ns.$)、遠方条件では正相関を示した ($r = .68, p = .05$)。これは、観察者によるマインド・リーディングが、ターゲットにおける時間的距離が増大することで正確になったことを示す。次に、観察者による評価推測と自身のターゲット評定との相関係数を算出した。その結果、サンプル全体では正相関を示した ($r = .58, p = .01$)。近接条件では弱い正相関である一方 ($r = .33, ns.$)、遠方条件では正相関を示した ($r = .84, p = .001$)。この結果は、部分的ではあるが、観察者による評価推測においても自らの見解を投射した可能性を示している。

推測と実際のズレ ターゲットの評価推測と観察者のターゲット評定のズレの絶対値を指標とし、遠方、近接条件間でその平均値を比較した。その結果、近接条件 ($M = 1.49$) と遠方条件 ($M = 1.39$) との間に差はみられなかった ($t < 1$)。Eyal & Epley (2010) の結果は再現されなかった。同様に、観察者の評価推測とターゲットによる自己評定のズレの絶対値を指標として平均値を比較した。その結果、近接条件 ($M = 1.46$) の方が、遠方条件 ($M = .60$) よりもズレが大きくなり ($t = 3.05, df = 27, p < .01$)、推測が不正確であることを示していた。

考 察

メタ知覚正確性の指標として、推測と実際の相関係数、ズレの絶対値を用いた。前者では、遠方条件でのみ正相関を示した。これは Eyal & Epley (2010) を再現するものであり、メタ知覚の不正確さに解釈レベルの相違が寄与する可能性を示唆する。他方、後者では差は認められなかった。遠方条件で不必要な修正過程が生じたのかも示れない。また、ターゲットの自己評定と評価推測は高い正相関を示し、メタ知覚に投射過程が寄与している傍証を得た。

観察者のマインド・リーディングは、いずれの指標においても近接条件よりも遠方条件で正確になった。これは、ターゲット人物で、心的距離に対応し自己評価の解釈レベルが変わったことによる。ターゲット人物における解釈レベルの調整は、自らの評価推測だけでなく、観察者のマインド・リーディングも正確にしたのである。また、観察者の推測は自分の見解と対応しており、ターゲット人物同様、投射過程が寄与している傍証が得られた。

引用文献

Eyal, T. & Epley, N. (2010). How to Seem Telepathic: Enabling Mind Reading by Matching Construal. *Psychological Science*, 21, 700-705.

本研究は JSPS 科研費 24530792 の助成を受けて行われたものです。また、実施時、昭和女子大学人間社会学部心理学科藤島研究室 2013 年度卒業生の協力を得ました。記して感謝します。